

第5回「市長と語るタウンミーティング」を開催しました

1 日 時 令和5年2月27日(月曜日) 午後7時～

2 場 所 子どもライブラリー (善通寺市子ども・家庭支援センター1階)

3 参加者

四国学院大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授 野崎 様

NPO 法人 子育てネットくすくす 理事長 草薙 様

吉原保育所 保護者代表 横山 様

南部保育所 保護者代表 土居 様

子どもライブラリー利用者 片山 様

計5名

4 会議の概要

【テーマ】子育て支援施策の拡充について

1. 開 会
2. 主催者挨拶
3. 参加者紹介
4. 子育て支援施策に関する現状等 概要説明
5. タウンミーティングフリートーク
6. 閉会

5 いただいたご意見

発言者	ご意見
【テーマ】子育て支援施策の拡充について	
<p>吉原保育所 保護者代表 横山 様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の保護者アンケートを集約し、公園を増やして欲しい等といった要望を市に提出したが、もっと子どもの数が増えるような面白い子育て施策があるといい。 ・幼稚園と保育所の違いに違和感がある。幼稚園は教育施設、保育所は福祉施設と、管轄の違いはあるが、幼稚園の方が費用の負担が少なく、また、小学校と連携が取れているイメージがある。 ・縦割り行政ではなく、保育所と小学校についても密に連携していただきたい。
<p>NPO 法人 子育てネット くすくす 理事長 草薙 様</p>	<p>【就労する、しないに関わらず子育て支援の充実を】 (※1)</p> <p>(※1 ご提案いただいた資料は文末に添付)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労している家庭が増えおり、多様なニーズに応えるため、子育てホームヘルパーの対象年齢を他市の例を参考に、小学6年生までに拡大してはどうか。 ・一時保育について、在宅児がいる家庭は月4回～8回程度利用できるような制度を作っては。育児負担や子育ての不安を軽減し、保護者が育児のリフレッシュ＝レスパイト(※2)することで虐待の予防に繋がる。(※2)一時的休息、休養 ・子育て家庭が地域で孤立しないよう、安心して善通寺市で産み育てることができるよう、産後の家庭訪問（個別）支援の充実を。 ・紙おむつや粉ミルク、離乳食の支援など、必要な支援やサービスを当事者が選択できる柔軟な制度の検討を。 ・制服や体操服のリサイクル、フードロス対策として子ども食堂への食品提供など他市を参考に活用の検討を。 ・給食の満足度調査、子育て家庭のニーズ調査などの需要を精査し、実態に即した支援を。

発言者	ご意見
【テーマ】子育て支援施策の拡充について	
<p>子どもライブラリー 利用者 片山様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサービスや各種支援がチケット制（選択制）になると利用しやすい。 ・ベビーマッサージやヨガなど、利用したいサービスが乳児を持つ親が対象になっており、年齢制限で利用できない。1歳未満の子を持つ親に限らず、対象年齢の拡大をお願いしたい。保護者が子どもを預けてリフレッシュできるような機会や支援事業を増やして欲しい。
<p>南部保育所 保護者代表 土居様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同世代の子を持つ保護者とゆっくり話す機会がない。子育ての悩みや情報が共有できるような、保護者を対象としたイベントや行事があれば。 ・子の幼稚園で「ちょこっとサロン」に参加したことがあり、園児が遊んでいる間に保護者だけ集まって子育ての悩みや色々な話しが出来た。このような機会が他の幼稚園や保育所等でも拡がれば。幼稚園や保育所等で実施されている行事や支援が統一されていないので、情報共有をしていただきたい。
<p>四国学院大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授 野崎様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・善通寺市と言えば、これまで子育て支援の先進地だったが、今は国の制度がパッケージ化されてどの市町も横並び状態となっている。 ・子育て支援サービスは身近なところで簡単に利用出来ることが重要。支援サービスのメニューが豊富にあっても、探し当てられず利用できない方が出てしまう。 ・子育てに関する情報を一元化し、各種支援サービスにアクセスしやすく、また、ライン等の SNS を利用して簡単に申し込みが出来るような工夫（デジタル化、システム化）が必要。

発言者	ご意見
四国学院大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授 野崎 様	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の影響により、教育現場では 1 クラス当たりの子どもの数と先生の数と比較すると先生が多かったりする場合もあり、子ども同士の切磋琢磨が出来ない環境になってきている。成長発達の集団の規模が小さくなってしまっている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、子どもを産むことを躊躇する世代が増えている。これから子育てを考えている人たちに、行政としてどう対応していくのかが、今後、県下市町の中の競争になってくる。
<p>【就学前教育の在り方について】</p> <p>少子化の進行や教育・保育ニーズの多様化に伴い、今後、幼稚園や保育所をどう再編すべきか。</p> <p>(幼稚園と保育所の機能を併せ持つ「認定子ども園」についてのご意見)</p>	
吉原保育所 保護者代表 横山 様	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校については必然的に統廃合が進んでいくと思っている。小学校に関しては、一学年に 2 クラス以上が維持できるようにして欲しいと考える。 ・認定子ども園については、保護者にとってどのようなメリットがあるのか。
四国学院大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授 野崎 様	<ul style="list-style-type: none"> ・地方の場合は、公立の幼稚園、保育所の先生の人数を減らす方法として、子ども園化がある。教育的な意味合いではない。 ・善通寺市の状況からすると、幼稚園を各地区に設置して運営ということが、子どもの人数から考えると成り立たない。
NPO 法人 子育てネット くすくす 理事長 草薙 様	<ul style="list-style-type: none"> ・認定子ども園のメリットは、保護者の就労の有無に子どもが影響されないこと。保育所の場合は、保護者の就労の変動により出ないといけなくなる。保育所に行ったり幼稚園に変わったりすることは、子どもにとって大きな負担となる。

発言者	ご意見
<p>【就学前教育の在り方について】</p> <p>少子化の進行や教育・保育ニーズの多様化に伴い、今後、幼稚園や保育所をどう再編すべきか。</p> <p>(幼稚園と保育所の機能を併せ持つ「認定子ども園」についてのご意見)</p>	
<p>四国学院大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授 野崎 様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公立に関しては、保育所と幼稚園を一元化し、認定子ども園にしていかないと、子どもの人数が減ってきているため、バランスが取れなくなる。 ・保育の質ということを考えると、幼稚園にしても認定子ども園にしても、やはり子どもの人数が一定数の規模がないと、保育にならない。そうすると、保護者の就労に関係せず在園できる認定子ども園の機能が必要なのでは。
<p>南部保育所 保護者代表 土居 様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年のように、「来年は保育所残る？幼稚園行く？」という会話が保護者間でされている。ある幼稚園では、年少時には園児が6人だけであった。残りは保育所へ行き、年中から幼稚園に入園した。6人だけで過ごす年少の1年間は、子どもの成長という観点からどうなのか。
<p>四国学院大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授 野崎 様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・善通寺市の場合、現在は0歳から6歳の間には保育所、幼稚園と必ず違うところに行く必要がある。認定子ども園の場合は、一貫して継続して同じ所で過ごすことができ、子どもにとってメリットとなる。また、保護者にとっても3歳時に幼稚園入園の手続きが無くなるため、メリットがあるのでは。 ・多様なニーズに応えるため、認定子ども園を導入し、利便性を高めることが大切。 ・他の市町のコピーではなく、市の独自性が必要。子育て世代に善通寺市で育てたいと思わせるような施策を考える必要がある。例えば、何か手当が出たり、税金面での優遇があったり等。

発言者	ご意見
【テーマ】子育て支援施策の拡充について	
四国学院大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授 野崎 様	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てでお金が多く必要になるのは、幼少期よりは大学受験等、大きくなってから。今は奨学金くらいしかない。 ・10代終わりから20代半ばの若者世代への支援について、市の施策として何かがあれば、今後、善通寺市で子どもを産み育てることへの不安を軽減させることに繋がるのでは。
NPO 法人 子育てネット くすくす 理事長 草薙 様	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の人々が、今実際にどのような支援やサービスを実現化して欲しいと思っているのか、もう少し具体的に把握して施策に反映していけたら良い。
四国学院大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授 野崎 様	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代のニーズを年間通じて恒常的に把握する仕組みがあれば。実際に子育てをしている人たちの声を丁寧に拾い集めた上で、市として政策的な決定をしていく必要があるのでは。ニーズを手軽に簡単に発信でき、また、我々市民もそれらが見られるような形に。
NPO 法人 子育てネット くすくす 理事長 草薙 様	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て広場くすくす(2ヶ所)では年に一度グーグルクラウドを利用してアンケート調査を実施している。 ・子ども食堂は「子夢の家」にて月に一度の開催で、50人程の利用がある。学習支援と食堂利用ができる。時間制のため、ラインで事前に申し込みが必要。貧困に限らず様々な方が来られている。
そ の 他 ご 意 見	
子ども食堂 ヤングリーフ 岡本 様 (ミーティングは不参加)	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館にて月に一度、手作りを基本として開催。50人程の利用があり、学習支援と食堂利用ができる。 ・夏休み期間中、預かりを利用する児童たちへの支援ができないかと模索したが、実施には至っていない。 ・必要な子供たちに必要な情報や支援の届けるような体制を構築していければ。 ・学校や地域との連携が重要。

提案書：NPO法人子育てネットくすくす 草薙めぐみ

善通寺型子育て支援の充実 子育て家庭の軽減負担プロジェクト

①就労する・しないにかかわらず子育て支援の充実を

子育てホームヘルパー(善通寺市)	ファミリーサポートセンター(市外の例)
<p>対象：乳幼児～小学生3年生(0～9歳)をもつ保護者の内一時的に育児及び家事援助を必要とする保護者のいる家庭に対するサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親 1H/250円 ・その他の家庭 1H/500円 <p>研修など受けた子育てホームヘルパーが自宅等へ派遣されるサービス。 (委託先：カナン子育てプラザ21)</p>	<p>対象：生後6ヵ月～小学生6年生</p> <p>時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ①月～金 7:00～19:00 1H/700円 ②月～金①以外の時間、土日祝 1H/800円 ※年末年始(1/29～1/3) <p>子育ての援助を受けたい人と応援したい人が会員となり助け合う組織。</p>

【利用者からの声】

- ・ホームヘルパーの対象年齢を小6まで上げて欲しい
- ・利用料金の負担軽減 ・就労家庭が多い世の中、多様なニーズへの対応が必要

②就労する・しないにかかわらず子育て支援の充実を

一時保育 (在宅家庭のサービス)

市内4カ所 (カナン子育てプラザ21・南部保育所・吉原保育所・わくわくチャイルド) で実施

一時保育 保育所等または幼稚園に在園していない未就学児を一時的に預かるサービスです。事前登録・予約をしてからご利用ください。

カナン子育てプラザ21「カンガルー組」		吉原保育所	
対象	料金	対象	料金
対象：生後5ヵ月～未就学児(市民)		対象：生後5ヵ月～未就学児(市民)	
	1日(8:30～17:30) 半日(8:30～12:30) (13:30～17:30)		1日(8:30～17:30) 半日(8:30～12:30) (13:30～17:30)
0歳児	3,000円	0歳児	3,000円
1・2歳児	2,500円	1・2歳児	2,500円
3歳児以上	2,000円	3歳児以上	2,000円
延長	前後30分につき250円 (半日利用の場合12:30～13:30)	延長	前後30分につき250円 (半日利用の場合12:30～13:30)
食事代	おやつ含む500円 おやつのみ100円	食事代	おやつ含む500円 おやつのみ100円

南部保育所「なかよし」		わくわくチャイルド	
対象	料金	対象	料金
対象：生後5ヵ月～未就学児		対象：生後5ヵ月～2歳児	
利用料金：1日(8:30～16:30)	2,000円	1日(8:00～19:00) 半日4時間 (9:00～13:00)(13:00～17:00)	
	※延長30分につき 250円	0歳児	3,000円
食事代(おやつ含む)	400円	1・2歳児	2,500円
半日については要相談		延長	前後30分につき500円
		食事代	おやつ含む500円 おやつのみ100円

【利用者からの声】

- ・各保育所の一時保育の登録申請の書類を統一してもらえると負担軽減になる
- ・一時保育を利用したい時に利用できるようにしてほしい

【今後の一時保育について】

在宅児がいる保護者(家庭)には、月4回～月8回程度での利用ができることで**育児負担や子育ての不安を軽減し、育児のリフレッシュ＝レスパイトすることによって虐待の予防にもつながる。**

※保育園等へ通園している家庭へは税金を投入しているから

※担い手の課題対策も大事

③就労する・しないにかかわらず子育て支援の充実を

【赤ちゃんが生まれた家庭への支援の充実と虐待予防】
虐待死の多くは0歳児死亡（全体数の約49%）の乳児期が多くを占めている。
地域で孤立しないように安心してこの善通寺で子育てをしてもらうためにも産後の家庭訪問（個別）の支援の充実。
また、紙オムツ・粉ミルク・離乳食の支援など子育て家庭が選択して自分の家庭に必要な支援やサービスを選択制にするなど、柔軟に子育て家庭への支援やサービスを提供できるように検討する。

④就労する・しないにかかわらず子育て支援の充実を

- ・子育て応援リサイクル（制服や体操服等）の活用。
 - ・他市では制服のリサイクルや企業と連携してフードロス対策（食品の提供）として、子ども食堂へ食品提供している。
- ☆リサイクル事例：三豊市社協・丸亀市社協・高松市社協
☆フードロス対策：ファミリーマートと三豊市社協

⑤就労する・しないにかかわらず子育て支援の充実を

- ・多子家庭への経済的支援
- ・経済困窮家庭の子どもたちが世代に渡り困窮しない支援の仕組み必要。

【その他】

☆小・中学生等の保護者からの声

子どもたちの話から給食の味・白ご飯の冷たさなどで食事の満足度が低い声が寄せられている。残飯もかなりの量が残るのがもったいないと子どもが話している。できたら子どもたちへの給食の満足度調査をしてみてもどうか？

☆地域が循環するまちづくりを

善通寺市で生まれ育った子どもたちが思春期から体得できる機会を設け、自分の子育てはこのまちでしたい！と思える基礎地盤をしっかりとる。安心・安全の子育てのまちづくりの視点が必要。

（例：中学生と乳幼児のふれあい体験の積み重ね）